

価値ある情報の代価の不合理

平和統一 NEWS No. 82 (2015/6月号)

渡辺 久義

インターネット上に公表された情報で、時間が経っても貴重であり、その証拠によく引用されるものがいくつかある。映画監督のアーロン・ルッソが、ニック・ロックフェラーとの交友と断絶を語るビデオは、その一つである。これは聞き取りにくい英語で、どなたかが翻訳して字幕を付けてくださったので、大変助かっている。こういう奉仕はいっさい無償であろう。そういう例は沢山あり、我々はこのような奇特な方々に感謝すべきである。(このビデオについての解説記事が、創造デザイン学会の「Post-2012 world 参考資料」をスクロールダウンして一番下あたりに、2 篇出ているのでご覧いただきたい。「隠された悪：アーロン・ルッソは殺されたのか?」「ロックフェラー、マイクロチップによる人類支配を認める」)

我々は、自分がいったいどういう世界に住んでいるのかという情報を、もっぱらインターネットから得ている。出版物は時間(とカネ)がかかるので、どうしてもネットに発表することになる。どうしてそんな重要な出来事を、新聞やテレビが報道しないのかという人があるだろうが、新聞やテレビは、むしろそれを隠すのが仕事だと考えてよい。

私がほとんど毎日あけて見るサイトが 4 つある。RT (Russia Today)、Information Clearing House、Global Research、GeoengineeringWatch で、私が翻訳してブログに載せるのは、ほとんどこの中から選んだものである。時間とともにますます貴重な情報が増え、次々と流れていくので、選択するだけでも苦勞する。少し前には、『ザ・シンクロニシティ・キー』の著者デイヴィッド・ウィルコックのブログ記事を盛んに訳したが、彼はとうとう姿を消した。暗殺されかけたことがあるので心配だが、単に身を潜めているのだと考えたい。

ところでこの 4 つのうち国家経営の RT を除いて、後は個人かごく小さいグループが経営するものである。むろん営利のためでなく、すべて無料公開だから、しょっちゅう哀願するように寄付を求めている。特に、広告を一切載せない方針の Information Clearing House は音を上げている。私は利用させてもらいながら、実は寄付をしたことがない。私たちも同じ立場だからである。「創造デザイン学会」と言いながら、会費を取るわけではなく、(皆無ではないにせよ) どこかから援助されているわけではない。私に名指しで寄付を求めてくるのは ID 理論の総本山 Discovery Institute だが、ここへも要求に応じたことはない。私はこの理論を日本へ紹介したが、それによって利益を得たことはなく、もし逆の立場で、私の書

いたものや理論を、外国で翻訳紹介してくれたとしたら、感謝こそすれ寄付を要求する気にはならないからである。(学術書の翻訳を出版するにはカネがかかるだけで、売れて儲かるなどということはない。)

とはいえ、もし余裕があれば、定期的に寄付すべきだとは思ふ。ICH がもし閉鎖されたら世界全体の損失であることは間違いない。今この時代、本当に価値のある読み物は、身を危険にさらしながら、身銭を切って、時には嘲笑されながら、ものを言う人々の文章である。ここで私がよく取り上げてきた「ケムトレール」は、今でも時折見られるが、そのことに触れると、私の妻や孫でさえ薄笑いを浮かべている。もしそれが重大なことなら、なぜ新聞やテレビが黙っているのか、メディアの言わないようなことは信用できないという、暗黙の考えが裏にある。しかし、これを不審に思い、日本のあらゆる省庁にしつこく電話をかけ、その返答ぶりをすべて録音して、ネット上に公表してくれた女性には感謝すべきである。これによって、その正体が分からないというということがわかった。これは少なくとも無視してよい軽い問題ではない。

先日、23日(土)には、これほどの悪魔的な会社はかつてなかったと言われる、巨大バイオテク会社「モンサント」を告発する、世界48か国の一斉抗議集会があった。先進国では日本だけが参加しなかった。これは、権力エリートと関係する恐ろしい問題であるがゆえに、環境が汚染されようが、人が病気になろうが、インドの綿花農家が次々に自殺しようが、主流メディアは知らぬ顔である。これを3回くらいアップデートして報道したのはRTだった(5/26「世界がモンサントに対して立ち上がる——400都市以上が遺伝子組み換えに抗議」)。Global Researchはこれまでに、モンサント社について数十回は取り上げている。日本人はその存在さえ知らない。

デモ隊のプラカードの中に、特に目を引く印象的なものがあった——

すべての木々が切り倒され／すべての水が毒され／すべての動物が死に／すべての空気が呼吸するのに不適となったとき／そのとき初めてあなたは知るだろう／お金は食べられないということ。

地球的気象破壊とともに、ここで言っていることは誇張ではない。まさかそんなことをする悪い奴はいないだろう、それでは自分も死ぬではないか、と誰しも思いたいところだが、その「まさか」が現に起こっているのだからどうしようもない。